



# さん が

第 九 九 号

平成 三十 年

西 曆 二〇一八年

秋 彼 岸 九 月 号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三一-五七二五

E-MAIL [sanga@tounji.net](mailto:sanga@tounji.net)

暑い夏が過ぎ、今年も秋のお彼岸がやって来ます。

お彼岸は、太陽が真東から昇り、真西に沈む日をまん中として、その前後一週間におつとめされます。「彼岸」という言葉は『源氏物語』にも登場するほどで、日本の伝統と呼ぶにふさわしい、古い習慣であることは間違いないありません。

「彼岸」とは「向こう岸」のこと。ここでは、仏さまのさとりの世界を指しています。

さとり、という大げさに聞こえますが、いつも、穏やかでいて、しかも気力の衰えない暮らしができる、心持ちと言ひ換えられるでしょうか。

お彼岸は、お墓やお寺へのお参りによって、その心持ちに至ろう、という期間であります。そういう意味では、私たちがふだん暮らす毎日のほかに、夢の国のような、「さとりの世界」があるというわけではありません。



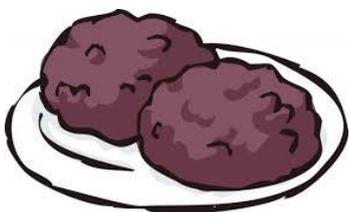
仏さまやご先祖さまに手を合わされるとき、みなさまはどういったお気持ちでしょうか。

じつは、手を合わせる事が、すでにさとりのスタートに立つ行いです。お仏壇があれば、なにかお供えをされるでしょう。それは感謝の気持ちに他なりません。

お彼岸には、おはぎをお供えする方は多いかも知れませんね。秋は、萩の花から「おはぎ」と言われ、春は、牡丹の花から「ぼたもち」と言われるそうです。

おはぎに欠かせない、あんこの材料である小豆は、秋が収穫日。お彼岸には、取れたての小豆を使ってこしらえた、おはぎをお供えするわけです。

小豆は魔除けの意味もあるそう。高級品だった砂糖を、ふんだんに使ったおはぎをお供えすることにより、感謝と幸せを祈る時間としたのでしよう。



# 秋の団参 最後ののご案内

愛知県豊川市の豊川稲荷（曹洞宗のお寺です）へ、  
家内安全・所願成就を、ご祈祷するお参りです。常  
滑焼の絵付けも、体験いたします。  
宿泊は館山寺温泉。知多から浜松まで、東海を満喫  
していただける旅です。

日時 10月25日（木）～26日（金）

宿泊 館山寺温泉「ウエルシーズン浜名湖」

参加費 三四、〇〇〇円

（ご祈祷料と、絵付け体験費用が含まれています）

みなさまのご参加を、心よりお待ちしております。

## この夏は・・・



猛暑に加え、多くの災害により、気象の歴史に残る  
ものとなったかも知れませぬ。

東運寺でも、いくつかの影響を受けました。

六月の地震では、震度五強でした。建物に大きな被

害はありませんでしたが、いくつかのお墓や、燈籠など、  
不安定なものが倒れました。

七月の豪雨では、幸いにも水害には至りませんでした。  
ただ、警報も続いていたこともあり、八日のお盆法  
要は、みなさまにお出で頂いての形としては中止し、お  
寺の者だけでおつとめいたしました。

その後の台風（十二号・二十号）では、強風によりお  
墓の卒塔婆立てが倒れたり、雨の吹き降り、本堂内に  
水が入ってきたりいたしました。

災害に際し、そのつど対応をしていますが、今夏は、  
とくにお墓参りをなさるみなさまに、ご不自由をおかけ  
したことと思います。墓地内の被害は、現在ほぼ復旧し  
ておりますこと、ご報告申し上げます。

みなさまのところではいかがでしたでしょうか。

それぞれの災害で被災された方は多く、まだ、不自  
由な生活をされていることかと思えます。

どうか早く、安心できる毎日が戻るよう  
に、願っております。



↑ ホームページこちらからも

東運寺ホームページは→

京都 東運寺

検索